ISSN0914-7748

ΑΛΗΘΕΙΑ

豊橋技術科学大学附属図書館報

1 APR. 2004

No.27

情報化時代における大学図書館／松爲宏幸 1
図書館と論文調査・収集／中村雄一 2
書店とWorld Wide Web、そして、書籍とWorld Wide Web
／梅村恭司 3
図書館のすすめ／井上　洋 4
新入生を迎えて／加藤　寛 4
大学図書館職員講習会に参加して／美野部亜紀 5
はじめて図書館を利用する人のために 6
Information 10
TUT-L NEWS 12

情報化時代における大学図書館

松　爲　宏　幸

数年前に退官された某教授の退官講義で本学在職中の思いでのいくつかを述べられた中で本学の図書館利用者が非常に少ない（特に教職員はめったに見かけない）というお話が印象に残っている。確かに、昨今のあわただしい本学の雰囲気では、講義、会議、研究指導その他で駆けずり回らざるを得ないので、のんびりと（？）図書館で書物に目を通す「豊かな知的時間」を持つ余裕は殆ど無いというのが大多数の先生方の実感かもしれない。

歴史ある多くの総合大学ではインフラ的に図書館（および時計台！）が大学の象徴的役割を担うが、機能的にも知的活動の中枢としての役割を期待して設立されている図書館の利用率が低いとすれば知的創造の場であるべき大学としては深刻な問題であると認識すべきかもしれない。

ただ、本学のような理工系単科大学では多数の専門学術誌が近年情報のネットワーク化により自室から直接アクセスできるようになっているし、ネットワーク情報化されていないバックナンバーの資料についても、もし本学に無ければ歴史の古い他大学図書館からコピーを取り寄せてもらえるので直接図書館を訪れる必要はない。筆者が時々図書館で調べる種類の専門外の一般的情報についてもインターネットを利用する場合が多いので図書館を訪れる人数の減少が図書館利用者数の低下（＝知的活動の低下）と直ちに結論することはできない。

現在大学を取り巻く厳しい変革の嵐の中で、大学の先生方が、ご自分の専門についても勉強する時間が十分取れないような状況が一過性で無く、長期間続くようでは大学の自殺行為と云わざるを得ないので、このような種々の学術情報利用形態の実情をある程度の期間にわたり掌握した上で、適切な対策を講ずることも長期的に重要であろう。〈ただし、そのようなアンケート調査により正確な情報取得の実態を掌握する作業は、ただでさえ忙しい先生方の時間をさらに奪うことになる！〉

併せて、情報化時代において知的中枢の機能を図書館がどうすれば果たせるのか新たな視点で考える時であろう。

（副　学　長）

図書館と論文調査・収集

中　村　雄　一

図書館・図書室は昔からよく出入りしており、高校生までは本を借りるため、大学に入って研究室配属されてからは文献調査のためなどでかなり利用した方だと思う。また就職後も研究・開発に関する仕事であったため、やはり文献・資料の調査のため図書館(室)を利用してきた。最近ではインターネットの普及で、わざわざ図書館まで行かずとも、多くのことを調べることができるようになり、また論文誌の電子化も進んできている。そこで今回、今までの自分の論文調査・収集に絡めて、図書館や最近の論文誌の電子化について思うことを書いてみたい。

論文等を調べる場合、学生時代は大学の図書館で聞けば大抵の論文は比較的容易に見つけることができ、また探し方などもいろいろ教えてもらった。就職後は調べたくとも、職場の図書室では限られたものしかない。そこで文献取り寄せも利用したが、多くは身分証明書の提示で誰でも閲覧複写ができた東工大の図書館をよく利用させていただいた。こうして多くの論文・資料が手元に集まってくると、そこから必要なときに求める論文を探し出すために整理が重要となる。これにはPCのデータベースを利用することで整理能力は大幅に向上できた。最初の入力が少し手間ではあるが、データベース化しておけば、キーワード検索でそれに関する手持ちの論文のリストを探してくれるので非常に重宝である。また論文のコピーといった紙媒体は量が増えるとかさばるので、その整理とともに保管場所も必要である。

近年インターネットの発展により、本学でも広く使われているWEBベースの電子図書館が利用できるようになってきた。これを使えばわざわざ図書館まで足を運ぶ必要もなく、キーワードで論文検索もできるので、居ながらにして必要な論文を遥かに短時間で調べることができ、非常に重宝している。さらに電子ファイルなのでダウンロードしても場所を取らないなど、その利点は多い。ただせっかくの電子ファイルであっても、やはりよく読みたいものは印刷してしまうため、そうなると従来と同じになる。一方少し困ったこととして電子図書館では論文に閲覧期限がある。つまりジャーナルによっては発刊後数年たったものはオンラインでは概要しか見られなくなり、後日調べようと思ったときに本文が見られずにがっくりきたこともある。この点、印刷媒体があればそこまで足を運ぶ必要はあるものの、必要なときにはいつでも見ることができ安心である。

論文紙の電子化は保管や検索を考えると便利なものである。ただ実際に読むことを考えると印刷物の方が論文に限らず目も疲れ難いし、また実際にものがあるという安心感がある。要するに私にとっては従来の印刷物も電子ファイルも一長一短なのである。今後、各種印刷物の電子化はますます進む方向にあるだろうが、印刷物がなくなることはないだろうし、それらを保管し必要なときにはいつでも閲覧できる図書館は今後とも健在でいてもらいたいものである。

（電気・電子工学系助教授）

書店とWorld Wide Web、そして、書籍とWorld Wide Web

梅　村　恭　司

望みの本が決まっているとき、World Wide Webで注文するのはとても便利だ。しかし、「このような本がほしい」ということはわかっても、そのような本があるかどうかわからないときは書店にでかけることになる。World Wide Webでの注文では、あらかじめ本を手にとって眺めるわけにはいかない。書店で本を探すのは楽しい時間で、何時間でも立ち読みをしながら過ごすことができる。また、書店は本を見定めて並べているので、良い本にめぐり合う確率も高くなる。このようなわけで、書店から大きな利益を享受していることになる。

書店は売り上げが落ちていて苦しいという話を聞いている。World Wide Webでの注文で、便利に安く、しかも迅速に書籍が入手できるため、書店に足がむかないということらしい。このまま、ほとんどの人がWorld Wide Webで注文するようになって、書店というものがなくなってしまったらどうだろうか。そうなると、書店から受けている利益も受けられなくなってしまうことになる。World Wide Webを利用して本を注文することは便利な仕掛けだけれども、それだけでは有用な本に出会うことが難しくなることを危惧されて、本の流通という立場からはWorld Wide Webだけというわけには行かない。

知りたいことがおよそ決まっているときにWorld Wide Webのサーチエンジンは強力な道具である。なにか調べ物をしようとするときに、サーチエンジンがあるおかげで、本を使わずにすむことが多くなっている。しかしながら、あるまとまった分野を勉強しようとしたとき、しっかりと構成された書籍を読むことなしでは、体系的な考え方はできなくなるだろう。また、本は「お金を出していただく」という目的のために、情報の質の管理がなされている。どこかのだれかが勝手に記述している内容に比べ、内容の信頼度は高いと考えられる。

書店ばかりでなく、本も売り上げが落ちていて、出版社も苦しいと聞いている。World Wide Webで調べると多くのことがわかるということも事実である。しかし、だれも本を書いて、編集して、販売しなくなるとしたら、信用できる情報を求めることができなくなるような気がする。

最近、私は共立出版より「Webマイニング」というWorld Wide Webから有用な情報を取り出すことに関わる訳本を出版した。World Wide Webは知識の宝庫である。しかしながら、体系的な情報は、書籍の情報から知識を得ることのほうがWorld Wide Webより知識を得るよりも簡単で効果的であるように思える。World Wide Webが無料で便利であるといっても、書店と書籍をなしですませるというわけにはいかない。学問に関わっている身としては、一定以上の金額を書店と書籍に使うことがある種の税金のようなもので、個人としては痛みが伴うけれども、社会のために必要なもののように思えてくる。

（情報工学系助教授）

図書館のすすめ

井上　洋

豊橋技科大図書館の最大の魅力は、なんといっても24時間利用可能だというところでしょう。

つまり，自分が利用したいと思えばいつでも利用でき、また閉館時間を気にせずに気が済むまで思う存分いることができるのです。私の知る限り、このシステムは他の大学にはないと思います。

そしてもう一つ、図書の貸出しは図書自動貸出返却装置（ABC）を使って自分で行うことが出来る点です。ですから職員さんのいない時間帯でも貸出が可能だというわけです。

このように本学の図書館は、研究や課題のための調べものは勿論、ゆっくりと本を読みたい人にとっても、非常に環境が整っている図書館であるのです。

私は本学に来てまだ一年少々ですが、図書館を利用する頻度は確実に多いと思います。やはり利用しやすい環境であるので、自然と足を運んでしまうのでしょうか。

これからも授業の課題や研究が始まったりと、調べ物は増えていくだろう思いますが、その時は迷わず図書館へ行って調べたいと思います。

他にも本学の図書館の魅力といいますか、便利なところはいっぱいあります。しかしながら、これは実際に利用してみなければ実感は出来ないと思いますので、ぜひ一度利用するといいと思います。

（生産システム工学課程　学部４年）

新入生を迎えて

加藤　寛

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。新たな大学生活の始まりですね。

大学では、高校や高専と比較して格段に自分の時間が持てるようになります。その時間をどう使うかで、大学生活の意味は大きく変わってきます。勉学に励む人もいれば、バイトに精を出す人もいるかと思います。どんな生活を送るにしても、図書館を利用することは、自分にとって有益なものになります。図書館には、多くの本があり、何気なく歩いていても、興味を抱く本がいくつかあると思います。それらの本を手に取り、読み解いていくと、知識の幅も広がり、視野も広くなっていきます。

図書館はテスト勉強、研究の資料集めの場として広く利用されています。テスト期間ともなると、人であふれ、一種の椅子取り合戦が繰り広げられています。図書館での文献検索はOPACと呼ばれるツールで効率的にでき、研究に役立つ論文・雑誌は豊富に揃っています。テストや研究以外でもさまざまな利用法があります。暇つぶしにDVDを見たり、サークルでミーティングをしたり、就職活動の情報収集などもできます。

もし欲しい本があれば購入してくれるかもしれないので申請してみましょう。詳しいことはカウンターの人に聞いてみてください。また、集中して勉強したいときは自分の部屋でやるより他人のやる気が伝わってくるので、効率的にできると思います。そんなわけで、わたしは図書館の利用を大いにお勧めします。ご利用は計画的に、くれぐれも他人に迷惑をかけないよう気を付けてください。充実した大学生活を。

（物質工学専攻　修士2年）

大学図書館職員講習会に参加して

美野部　亜　紀

平成15年11月11日（火）から４日間，文部科学省主催の「平成15年度大学図書館職員講習会」（大阪会場）に参加いたしました。この研修では，全国から国公私大の合わせて９９名の図書館職員が参加し，図書館業務に関する最新の知識を学びました。

内容は，11の講義と，班別の共同討議及びその結果発表，会場である大阪大学附属図書館の見学等でした。

講義については，平成16年度からの国立大学法人化が目前に迫っている事もあり，「図書館経営」に関するものが印象に残りました。今後は，サービス内容の多様化，他の部局との統合，アウトソーシングの導入といった変化に対応していく必要があります。その中で専任職員として，一層のサービスの向上を目指すには，書誌や主題に関する知識だけでなく，IT活用能力・マネジメント能力・学内外に対するコミュニケーション能力などが問われることを再認識しました。

次に、班別共同討議については，あらかじめ３つのうちから選んでおいたテーマについて，10人毎のグループに分れて意見交換をしました。私は現在の業務とも関連しており，以前から関心のあった「大学図書館における情報リテラシー教育の展開」を選択しました。討議では，効果的な情報リテラシー教育を実施するためには，何を，誰が，どのような形式で行うべきか，最も適切な方法と内容が選ばれ，充分に計画されたものであることが大切であること，大学全体で取り組むこと，特に先生方と連携をとりたいという点で意見が共通しました。また，参加者それぞれの所属大学で現在実施されている情報リテラシー教育の事例や，問題点（例えばガイダンスの参加者が少ない，教材の工夫など）について意見を交わす中で，お互いにアドバイスやヒントを得ることができたと感じています。

最後に，私は今回の研修ではじめてその存在を知ったのですが，大学図書館をめぐる最新の動向として、新しい取り組みであるSPARK/JAPANについて述べたいと思います。昨今の大手商業出版社による外国雑誌の寡占化と，それにともなう雑誌価格の高騰化で，大学図書館では雑誌購読費は増加しているにも関わらず購読タイトル数が減っているという矛盾が生じ，悲鳴をあげています。加えて，日本の研究者の優れた論文の多くは，日本誌でなく海外誌に投稿されています。SPARK/JAPANは，欧米のSPARKをモデルとして新しく始められた事業で，国立情報学研究所が主体となって，国内の学協会，大学図書館，欧米SPARK等と連携し，日本の英文誌の国際的な評価向上と，編集工程を含む電子化の推進，さらにそれらを適切な価格で提供するビジネスモデル形成支援をめざしているそうです。この取り組みはまだ始まったばかりですが，平成15年度は16学会の21タイトルが選定誌に選ばれています。また欧米のSPARKの成功例のひとつとして，欧米化学会のOrganic Lettersが紹介されました。これは有名なTetrahedron Letters（Elsevier社）に対抗するSPARK誌として刊行されており，価格はTL誌の1/3であるが，学術誌としての評価は，インパクトファクタがTL誌をはるかに凌ぐほどに高成長をなしとげているとのことでした。

ここでは研修内容のすべてを書ききれませんが，講義や他館の図書館員の方々との情報交換を通じて，充実して研修を終えることができ，明日からまた頑張ろう，という気持ちを新たにしました。以上，簡単ですが研修報告とさせていただきます。

（情報図書課）

はじめて図書館を利用する人のために

情報図書課

図書館の開館時間

この図書館は24時間利用することができます。開館時間は、職員が対応している通常開館と、職員がいない特別開館になっています。

月曜日～金曜日	通常開館	9:00	～	20:00
	特別開館	20:00	～	8:30
土曜日	通常開館	13:00	～	17:00
	特別開館	17:00	～	12:30
日曜日・祝日	特別開館	0:00	～	24:00

＊春・夏・冬期休業中、年末年始等は開館時間が変更になります。時間の変更は掲示等でお知らせします。

図書館の入館方法

[通常開館]

学生証、身分証明書等（以下IDカード）を入館ゲートに読み取らせバーを押して入館してください。

[特別開館]

IDカードとパスワードを使って特別開館専用入口から入館します。特別開館時間帯の利用方法及びパスワードについては，4月に行われる「図書館利用ガイダンス」で説明します。

資料の貸出・返却方法

[貸出]

IDカードと借りたい資料をカウンターに提示してください。図書自動貸出返却装置(ABC)がカウンターの前に設置してありますので、自分で操作し借りることもできます。視聴覚資料は、カウンターに提示してください。図書自動貸出返却装置（ABC）は使用できません。

図　　書	学　生	貸出冊数 7冊まで	貸出期間　20日以内
	教職員	貸出冊数10冊まで	貸出期間　30日以内
視聴覚資料	学生・教職員とも　貸出点数3点まで　貸出期間3日以内		

借りたい資料が貸出中の場合は、貸出の予約ができます。館内の蔵書検索用端末（OPAC）や図書館HPから予約できます。

[返却]

返却する図書をカウンターまでお持ちください。図書自動貸出返却装置(ABC)を自分で操作し返却することもできます。特別開館時間帯は、図書館の玄関前に返却ポストがありますので、こちらに図書を入れてください。視聴覚資料は職員のいる通常開館時間に、直接カウンターへ返却してください。

学内の図書・雑誌を探す

図書館の各階に2台ずつある検索用端末や、図書館の外からも、図書館HP（http://www.lib.tut.ac.jp）の「蔵書検索」(OPAC)のページから、学内にある図書・雑誌を調べることができます。また、これ以外に雑誌には電子ジャーナルがあります。こちらはOPACからは検索できません。利用できる電子ジャーナルの雑誌名は、図書館HPの「電子ジャーナル」のページをご覧ください。

＊電子ジャーナル・・・インターネットを通じて見ることができる雑誌です。電子ジャーナルは、図書館HPを通じて学内から利用できます。

［OPACの検索結果例（図書）］

「蔵書検索」のページから検索をすると、学内にある図書については、図書のある場所が表示されます。

例：書名「大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方」

所在・・・資料のある場所

所在：図·3F開架

請求記号：816.5||YO

請求記号・・・図書の背についている番号

右の例では、「大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方」の図書は、図書館の3階開架書架の、請求記号816.5||YOにあることが表示されています。

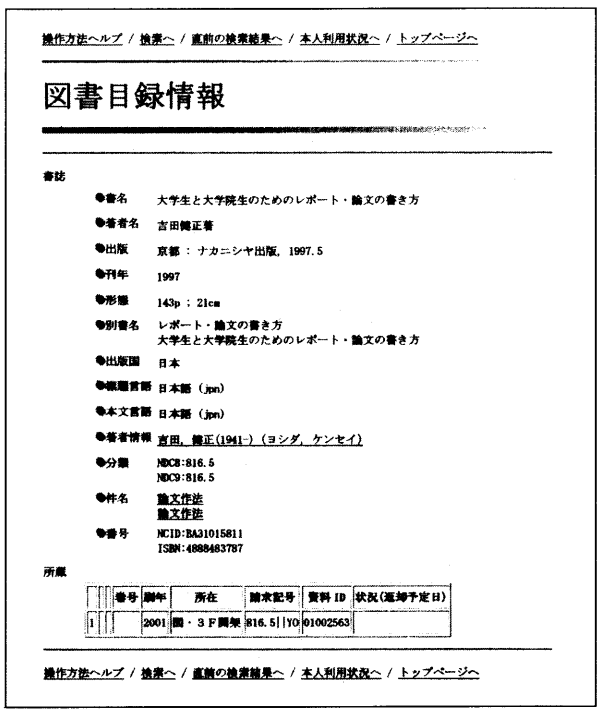
図書は、3階開架·1階参考などの所在ごとに請求記号順に並んでいます。

所在はほかに、

図·１F参考・・・図書館の1階参考図書コーナーにあります。

研·○○　・・・教官研究室にあります。

などがあります。



操作方法へヘルプ / 検索へ / 直前の検索結果へ / 本人利用状況へ / トップページへ

図書目録情報

書誌

- 書名　大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方
- 著者名　吉田健正著
- 出版　京都：ナカニシヤ出版，1997.5
- 刊年　1997
- 形態　143p；21cm
- 別書名　レポート・論文の書き方
大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方
- 出版国　日本
- 概題言語　日本語（jpn）
- 本文言語　日本語（jpn）
- 著者情報　吉田，健正(1941-)（ヨシダ，ケンセイ）
- 分類　NDC8:816.5
NDC9:816.5
- 件名　論文作法
論文作法
- 番号　NCID:BA31015811
ISBN:4888483787

所蔵

		巻号	刊年	所在	請求記号	資料ID	状況(返却予定日)
1			2001	図・３F開架	816.5||YO	01002563	

操作方法へヘルプ / 検索へ / 直前の検索結果へ / 本人利用状況へ / トップページへ

資料のある場所について

1階には、貸出できない禁帯出の辞書、ハンドブックなどの参考図書、年鑑・白書があります。

2階には、最新号の雑誌と、それ以前の雑誌があります。雑誌は館内利用のみです。

3階には、貸出できる図書と、岩波文庫などの文庫本や、岩波新書、講談社現代新書、中央公論新書、ブルーバックスなどの新書があります。

論文を探す

ＪＤｒｅａｍ（JST固定料金サービス）、ＳｗｅｔｓＷｉｓｅ、CAonCD（Chemical AbstractsのCD-ROM版）などの文献データベースが利用できます。図書館1階のCD-ROM端末のみで利用できるもの、図書館HPを通じて研究室からも利用できるものなどがあります。

詳しくは、図書館HPの「文献情報検索」のページをご覧ください。

CD-ROM

科学技術文献速報、COMPENDEX、METADEX、HIASK、PDF、JIS総目録などが利用できます。カウンター、レファレンスデスクに申し込んでください。

館内案内

カウンター（1階）

本の貸出、返却、ノートパソコンの貸出、図書館利用についての相談などを行っています。

カウンター

レファレンスデスク（1階）

資料の検索についての相談や、資料の探し方、文献の取り寄せなどについて相談できます。

パソコンコーナー（1・2階）

1階と2階にWindowsパソコンがあります。こちらのパソコンは24時間自由に利用できます。

パソコンコーナー（2階）

ノートパソコンコーナー（1階）

1階にノートパソコンコーナーがあります。こちらのパソコンの利用には申し込みが必要です。カウンターでIDカードを提示し、お申し込みください。IDカードと引き換えにカギをお渡しします。

視聴覚資料コーナー（1階）

CD、ビデオテープ、カセットテープ、DVDがあります。

ラウンジ（1階入口）

朝日、中日、毎日、読売、中日スポーツ、日本経済、東愛知、東日、日刊工業、The Japan Times、Times、Herald Tribune、Garden Weeklyなどの新聞があります。また、雑誌を読むことができます。

新聞コーナー

CD-ROM検索用端末（1階）

CD-ROM用端末が2台、PDFファイル用端末が1台、CA on CD用端末が1台あります。

コイン式コピー機（1階）

図書館の資料をコピーできます。他に、1・2階のカード式コピー機（校費のみ）があります。コピーする際はコピー機の横にある文献複写申込書に必要事項を記入し，指定のボックスかカウンターまでお持ちください。

雑誌閲覧室（2階）

その年のものが、アルファベット順に雑誌架にあります。過去のものは、製本されて、和雑誌は、2階パソコンコーナー横の書架に、洋雑誌は，2階書架にあります。1983年以前のものは、3階集密書架にあります。

グループ研究室、小グループ研究室（2・3階）

グループで部屋を借りることができます。カウンターにお申し込みください。

一般図書閲覧室（3階）

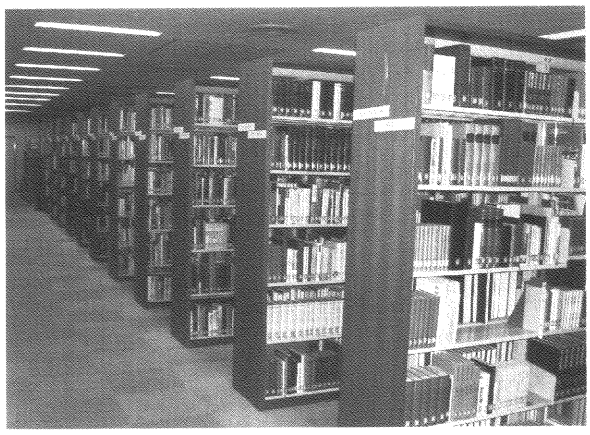
一般図書，教養図書，新書，文庫などが配架されています。

視聴覚室、視聴覚個室（3階）

TV、CDプレーヤー、ビデオ、DVDプレーヤーを利用できます。カウンターにお申し込みください。

閲覧室（2階）

グループ研究室（2階）



一般図書閲覧室（3階）

＊守りましょう＊

館内は喫煙・飲食禁止です。
携帯電話の電源を切り，通話もしないでください。
館内では、私語を慎み、他の利用者の迷惑にならないよう、静かに利用してください。

電子ジャーナルを活用しよう！

情報図書課

昨今、図書館の電子化、情報化等の電子的機能の充実は、研究や学習の支援に資する上で、大変重要なものとなっております。

電子化の代表的なものに学術雑誌の電子化があります。電子ジャーナル又はonline journalと呼ばれているもので、この学術雑誌の電子ジャーナル化は、ますます拡充の傾向にあり、その果たす役割も大きなものとなっています。これを知って、有効に活用するかしないかで、学習・研究上の効率がかなり違ってくることは、想像に難くありません。

そこで、今回は、電子ジャーナルについて、その特徴や本学で導入している電子ジャーナル、その利用方法や注意事項について説明します。

電子ジャーナルって何？その特徴は？

・学術雑誌の全文が電子化されたもので、インターネットに接続したパソコンから２４時間利用できる。
・冊子体より早く、内容を閲覧することや、印刷することができる。
・タイトルや著者名などから論文を検索すること等もできる。
・リンクがあるものについては、その場で引用文献まで参照できる。

利用するのに必要なもの

・学内ＬＡＮに接続されたパソコン
・Internet Explorer やNetscape などのWWWブラウザ
・PDF形式のファイルで保存された論文を閲覧するためのAcrobat Reader

電子ジャーナルの種類

本学で導入している電子ジャーナルの種類には、以下の5種類があります。

１．無料で公開しているもの
２．冊子体に無料でついてくるもの
３．冊子体＋追加料金で見られるもの
４．冊子体とは別に購入するもの
５．コンソーシアム（複数機関による共同購入）

電子ジャーナルコンソーシアム契約をしている以下の５社は大学で購入していない雑誌も多数フルテキストが見られます

・ScienceDirect　約1000誌
・SpringerLINK 約450誌
・Kluwer Online 約650誌
・Wiley InterScience 約350誌
・ACM Digital Library 雑誌約80誌　会議録 177タイトル

利用方法

これらの電子ジャーナルは、いずれも本学附属図書館のホームページから利用できます。

1．本学附属図書館のホームページhttp://www.lib.tut.ac.jp/にアクセスする。
2．コンテンツの中から、電子ジャーナルを選ぶ。
3．本学で利用できる電子ジャーナルの画面が現れる。

電子ジャーナルのアルファベット順リスト、コンソーシアム契約の電子ジャーナル、出版社別、無料の電子ジャーナル等に区別して掲載してありますので、該当するものを選んで、見たい雑誌や論文にアクセスしてください。

なお、電子ジャーナルには、冊子体にはない検索機能やアラート機能といって、登録しておくことにより、登録したキーワードを含む論文が出たとき、メールで自分のところへお知らせがきたり、雑誌の目次を受けとったりできる便利なサービスがあります。

以上が、電子ジャーナルについての概要です。利用方法や機能の使い方等についてわからないときは、学術情報係へお尋ねください。4月には電子ジャーナルについてのガイダンスも実施しますので、詳しくは同係へ問い合わせをしてください。

習うより慣れろと言う言葉がありますが、電子ジャーナルについてもまさにそのとおりで、何度も使ううちに自分のものにできるようです。

利用上の注意

最後に、非常に重要な利用上の注意について述べます。

電子ジャーナルは、ネットワークに接続された学内のパソコンからなら、いつでも、どこでも利用することができるという大変便利なものです。このような便利なサービスも、その使い方によって、利用条件を逸脱した不正使用として厳しいペナルティが課せられます。その利用条件とは、以下のようなものです。

・短時間での大量のダウンロードは禁止されています。
・ダウンロードした論文は、個人の学術研究・教育以外の目的に使用できません。
・ダウンロードした論文の複製・再配布は禁止されています。
・ジャーナルの大部分をダウンロードしてストックするなどの行為は、著作権の侵害となり、不正使用となります。

以上のような不正使用が発覚すると、直ちにアクセス制限を受け、原因調査と報告、再発防止を求める警告文書が送られてきます。このような事態になることは、大学全体の教育・研究に大きく影響を与えるものとなります。この重大さをしっかり受け止め、快適に電子ジャーナルを利用することができるよう心がけたいものです。

皆さん！　図書館の電子的機能を利用上の注意事項を遵守しながら大いに活用し、学習・研究に役立てましょう！

TUT-L NEWS

15.10. 2	豊橋市図書館協議会(会場:豊橋市中央図書館) 出席者　附属図書館長
15.10. 7	大学図書館等関連事業説明会(会場:名古屋大学) 出席者　情報サービス係長
15.11.11 ～14	平成15年度大学図書館職員講習会(会場:大阪大学) 参加者　学術情報係　美野部亜紀
15.11.20 ～16.1.9(内4日間)	愛知図書館協会レファレンスサービス研修 参加者　学術情報係長
15.11.27	豊橋市図書館協議会(会場:豊橋市中央図書館) 出席者　附属図書館長
15.11.27 ～28	全国図書館大会(会場:静岡市) 参加者　情報サービス係　前田勝典
15.12.8	東海地区国立大学図書館協議会事務連絡会(会場:名古屋大学) 出席者　図書課長
15.12.8 ～9	第16回国立大学図書館協議会シンポジウム(会場:神戸大学) 参加者　情報サービス係長
15.12.9	平成15年度情報セキュリティ講座(会場:名古屋大学) 参加者　図書課長，学術情報係　黒柳裕子
15.12.15	東海地区大学図書館協議会研修会(第1回)(会場:名古屋大学) 参加者　情報管理係長
15.12.19	Global ILL Fromework と画像伝送システムの活用研修会(会場:京都大学) 参加者　学術情報係　黒柳裕子
16.1. 9	法人格取得問題に関する懇談会(会場:名古屋大学) 出席者　図書課長
16.1.13 ～16	学術ポータル担当者研修(会場:国立情報学研究所) 参加者　学術情報係　黒柳裕子
16.1.18 ～21	学術情報リテラシー教育担当者研修(会場:国立情報学研究所) 参加者　学術情報係　美野部亜紀
16.2.6	第6回高専・豊橋技術科学大学図書館業務検討会(会場:本学) 参加校　岐阜工業高等専門学校・沼津工業高等専門学校・豊田工業高等専門学校 鳥羽商船高等専門学校・鈴鹿工業高等専門学校
16.2.19	東海地区大学図書館協議会研修会(第２回)(会場:椙山女学園大学) 参加者　情報管理係　鈴木明美

“ΑΛΗΘΕΙΑ”

図書館の入り口の壁に掲げられている銘板のギリシャ文字 “ΑΛΗΘΕΙΑ”（アレーテイア）は、「真理」を意味します。

表紙デザイン

表紙のデザインは、野澤隆秀氏(本学卒業生・元建設工学系助手)によるものです。

豊橋技術科学大学附属図書館報「ΑΛΗΘΕΙΑ」第27号　平成16年4月1日
■編集・発行　豊橋技術科学大学教務部情報図書課
■〒441-8580　愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1－1　TEL. 0532-44-6562
FAX. 0532-44-6566